市民意識の醸成につとめたのであった。

市農業土木課の調べによると、昭和三五年度までに六九箇の農林道を新設しており、その事業費三億七〇〇〇万円に達している。一方、市の土木費の中でもウェイトの高い失業対策事業では、道路の維持修繕、下水路の整備などを行なっているが、その主なものは富士山ドライブウェイの建設事業である。富士山ドライブウェイは、一九五七年（昭和三二）に着工し、一九六一年（昭和三六）に竣工している。この間に要した延人員は五万九六五一人となっているが、これはこのころの失業対策事業の作業が、ほとんど人力中心に行なわれたため、このような多数の人員となったものである。

国・県道の整備事業も順次行なわれているが、一九五七年（昭和三二）建設大臣が来洲したとき、肱川橋の改築促進を強く要望している。肱川橋改築工事は翌年一〇月から県営事業として第一期工事が始められ、三年後の一九六一年（昭和三六）三月、総工費一億一四二一万円を投じて竣工した。市民の宿願であった肱川橋改築の竣工は、市をあげて二日間にわたり旗行列をはじめ素人のど自慢大会、市民演芸大会、野球、バレー大会などを催し、祝賀行事を繰りひろげたのであった。工事中にも市民の関心は強く、興味をもって見守ったが、その模様を「広報おおず」は次のように報じている。

「……ものすごく大きい赤色の橋桁がケーブルクレーンによって架設される様子は近代橋梁工事の光景をいくもので通行人の目を見張らせるに充分なものがある。」

車輌の交通量が増大したため、竣工してから七年目の一九六八年（昭和四三）三月、橋の両側に一・五㍍ずつの歩道がとりつけられ、現在の肱川橋となった。

道路の新設にともない交通の便が次第によくなってきた。一九五六年（昭和三一）五月に、県道森山野村線が竣工して国鉄バスが通じ、翌年二月に田処～大洲の直通バスが開通し、さらにその翌年の九月には北裏までバス路線がのびるなど、市の中心部と部落を結んで時間的距離が大幅に短縮された。他方、市の中心部では昭和三一年五月から、柚木、殿町、若宮と、当時の二級国道が舗装され、市の街路として体裁を整えてきた。

第二期　（昭和三六年～昭和四〇年）

この期間は道路架橋行政の面で地固め期ともいえる。このことは市の決算統計中の道路橋梁費の支出額でみると、昭和三五年度の支出額九〇〇万円足らずであったが、昭和四〇年度は二一〇〇万円余と増加していることで明らかである。昭和三六年四月に肱川橋改築竣工、同年八月田処橋竣工、同年九月には上須戒地区の多年の懸案であった瀬田林道二六五二㍍の全線が、自衛隊の協力により二年がかりで完成した。同年九月梅川橋、翌年三月小屋床橋が竣工、さらに昭和三八年三月には市道蔵川線の老谷橋、新谷満穂線の一の瀬橋、屠場橋が竣工、市道梶屋谷線を改修が完了している。

これら橋梁工事については本橋の改修工事であるが、昭和三七年度から始められた南予低開発の土木橋梁事業（補助率五割）や県単独補助事業（補助率四割）の補助対象事業として行なったものが多く、市単独の橋梁改修事業は旧肱川橋の払い下げ鉄材を使って行なっている。一方農

を保護し、あるいは城山下に深溝をつくって城の要害を堅固にするためのいの構築物である。

堤防に竹藪を作ったのも、たげを築いたのも、藩主加藤泰興の時代にもっとも優れた治水施工者といわれた反田八郎兵衛がこれに当たったといわれている。

肱川のたび重なる洪水（第二編第三章参照）のとき、城下を水害から救うために、川幅を広げて通水をよくしようとして、一八三一年（天保二）から慶雲寺の山角を崩り除く工事を行なったことが「加藤家年譜」に見えており、また幕末ごろには、実際に施行されるには至らなかったが、如法寺観音堂下から三嶽山へトンネルを掘り抜いて、田口へ肱川の水を通じる正確な設計図が作られていて、五郎城願寺に保存されている。また、施行の時代はわかっていないけれども、大洲城下の町裏、肱川に沿って幅約六尺の石畳をしき詰めて、高い石垣を築き、その上へ町家を建てならべた都市計画が施されていて、どれほどの洪水にもくずれることなく、現在なお肱南地区は安泰である。

二　肱川総合開発

一八九六年（明治二九）に河川法が施行され、一九二九年（昭和四）に肱川が河川法の適用を受けるようになり、県が直接管理を行なうことになった。一九三五年（昭和一〇）には、流域の町村で肱川治水期成同盟会を結成し、治水について真剣にとり組んで強力な運動をおこしはじめた。河川改修が本格化したのは、昭和一八年と昭和二〇年に大洪水の被害を被ってからのことである。

建設省肱川工事事務所が大洲に設置されたのが一九四四年（昭和一九）で、肱川はそれ以来、建設省直轄河川として管理されることになった。早速六月から中村築堤工事に着工した。しかし、戦時中に引きつづき終戦後の不安定な経済界の影響で、工事はなかなか進まなかった。翌年一二月から矢落川第一築堤工事に取りかかった。この工事も遅々として進んでいない。一九四六年（昭和二一）になると、復員者が職場に復帰し、機構も一層整って、ようやく工事が順調にのびはじめた。同年七月から大洲町の胸壁工事が始まった。肱川治水期成同盟会では研究討議の結果、肱川の治水の抜本的対策には、上流にダムを構築して洪水を調節する以外にないとの結論に達し、改めて肱川ダム建設期成同盟会として再発足することとし、引き続き強力に運動を進めた。県もその対策を全面的に賛成して、翌年建設省へ、肱川多目的ダム建設を申請した。昭和二一年九月から矢落川の拡幅掘削工事が始まり、翌年矢落川第二、第三築堤工事に着手、一九四八年（昭和二三）七月、中村第二築堤工事に着手した。この時から木炭機関車がガソリン機関車に変わって作業能率があがってきた。また別に、同月から大洲城山上流の土堰胸壁工事にとりかかり、翌昭和二四年八月に完成している。

第85図　大洲町の昔の胸壁工事石垣

昭和二五年度に入って、矢落川で施工した三つの築堤工事を、矢落川堤防工事と名称を変えて、最後の仕上げにかかり護岸・地固め、橋梁等の工事を行ない、昭和三〇年度に、すべての工事を完了した。中村築堤工事もまとめて大洲堤防工事と名称替えして工事を続行した。一九五二年（昭和二七）四月には若宮堤防工事に着工し、築堤、上羽養生工事を行なって、一九五六年（昭和三一）一〇月に落成した。この間、殿町・志保町・本町・樹形の胸壁工事がそれぞれ落成している。

一方ダム建設を申請してから五年後の一九五三年（昭和二八）に、ようやく肱川総合開発事業年度予算五、四〇〇万円が決定し、本工事開始の態勢が整った。清水建設の手によって昭和三一年六月着工し昭和三四年三月に落成した。肱川流域の人々の年来の願望が達成した喜びは格別であった。事業の概要は次のとおりである。

位置	愛媛県喜多郡肱川町山鳥坂
型式	重力式コンクリートダム
ダムの高さ	六一㍍
堤延長	一六七・九㍍
集水面積	四五五・六平方㌔
総貯水量	四八二〇万立方㍍
有効貯水量	二九八〇万立方㍍
満水時水深	一七㍍
最大出力	一万〇四〇〇㌔
年間発電電力量	五六一二万㌔時

総事業費　三九億二七〇〇万円

一九五九年（昭和三四）に喜富川改修期成同盟会が結成されて喜富川の改修が進められ、久米川の改修と合わせて、一九七〇年（昭和四五）までに約一億五、〇〇〇万円の工費が投ぜられている。河床保全のための城山下流宋比堰工事が行なわれ、一九六七年（昭和四二）に落成した。

三　治山事業

一九一七年（大正六）から五か年にわたって、蔵川村では水源かん養のために植栽事業が行なわれた。樹種はクスギ・スギ・マツ・ヒノキの四種類で、これを二二㌶余りの山に植栽した。

また新谷村・菅田村では、地盤保護のために渓流・山腹へ、一九二五～六年（大正一四～五）に土留工事、石積工事を行なっている。

第64表　年度別旋行箇所及び工費

昭和年度	施行箇所	工費	昭和年度	施行箇所	工費
		円			円
18	13	80,180	32	3	6,617,085
19	13	97,102	33	6	7,835,079
20	7	58,132	34	3	6,389,879
21	11	687,636	35	6	6,292,000
22	4	1,084,821	36	4	7,461,216
23	2	1,965,000	37	3	4,930,200
24	2	3,200,000	38	1	2,325,800
25	3	4,300,000	39	2	6,084,800
26	4	9,071,743	40	0	—
27	3	6,055,851	41	2	2,528,700
28	5	4,903,000	42	3	5,701,700
29	7	6,121,053	43	4	8,261,900
30	2	4,858,420	44	5	11,237,200
31	2	5,486,542	45	1	969,000

一九五三年（昭和二八）国道に指定された肱川橋は、幅員が狭く、激増する交通量をさばききれなくなって、一九五八年（昭和三三）から三か年計画で拡張工事が行なわれ、一九六一年（昭和三六）四月二九日に完成した。なお一九七〇年（昭和四五）に国道五六号線の鳥坂トンネルが開通し、大洲市と宇和町がトンネルで結ばれた。これで、標高四三〇㍍の鳥坂越えは、距離にして一五粁あったものが六・八粁に短縮され、走行時間もこれまでの四分の一となり、峠越しの苦労が解消した。

第153表　大洲市の国道県道路線

		路線名	区間	指定年月日	総延長	舗装率
国道	一	五六号線	高知市～松山市	昭二八・五・一八	三二四、〇〇〇㍍	九一・三%
	二	一九七号線	高知市～大分市	（昭三七・五・一） （昭四六・四・一）	三三〇、四〇〇	七五・八
道	三	大洲長浜線	大洲市～長浜町	昭三〇・六・二四	一七、三五八	八三・一
	四	大洲近永線	大洲市～広見町	昭三〇・六・二四	二四、〇一七	三六・〇
	五	串内子線	双海町～内子町	昭三三・六・二七	一三、〇八八	六・四
	六	鳥首五十崎線	鳥首～五十崎	昭三三・六・二七	八、〇四四	三七・六
	七	桐の目新谷（駅）線	柳沢～新谷停車場	昭三三・六・二七	六、九七六	二四・四